

言葉は誰しも
が持っている
「凶器」だ

物心からついた
その日から

花束にもなれる
「ソレ」を
振り回して

「自分」を

「家族」を

「友人」を

傷つけ続けた

……ははッ、ノルマ

だから、あの日

世界は言葉に殺された

ノックアウト

また友達になったんだね

「何、それとね」



その日、人の口から吐き出された
「コトバ」共が自我を持った

その「原因不明」の現象
にヒトビトは冷静さなど
忘れ、逃げ回った

街は破壊され、人々は虐殺され、
原因も分からず世界は混沌として
いく中、

いつしか、俺だけが
取り残されていた

だが、それを嘲笑い
ながら

「コトバ」共はまるでオモチャを壊
すかの如く、人を殺し回り続けた

あらゆる感情達が
人々の心に、口を生
み出されるたびに、
「コトバ」共は量産
されていった

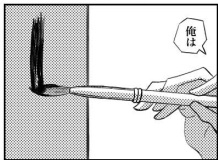
そして、

絶望

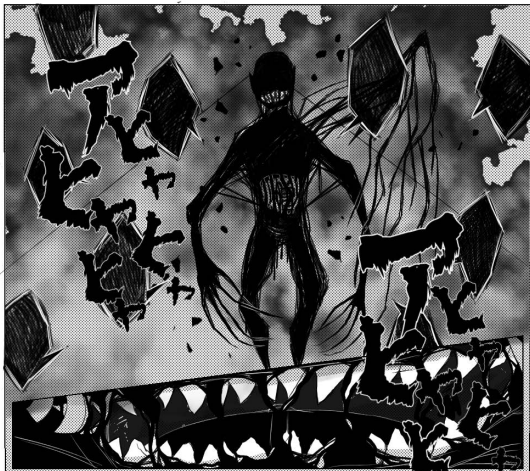
恐怖

憎悪











なんでいつも、
こうなるんだよ



俺はまだ、何もできてないのに…



な、
んで…



なんで、
邪魔すんだよ

俺は、ただ…



お前は自分の存在を認めさせただけだろう？



世界は、果に尊され
も、少年、大人、老
も、陰を、描き、終
る。

数字欲

もつぞらになつて
何で多い
俺はより
誰も
努力
彼れが
してなん

彼奴作力
評價

俺の口癖

欲 もつ もつと

俺の方
ふん

評價の改変

認て言葉が欲しい彼奴

[illegible]

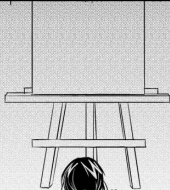
何で入信してんか
おれもさふけな
んて言ふてよ
うな。さうい
ふと、おれは
何

もど
認
てれ
外に出す
楽し
た

俺は……



イリン
イリン……



—— ああ、そうだ。



—— こうすれば、



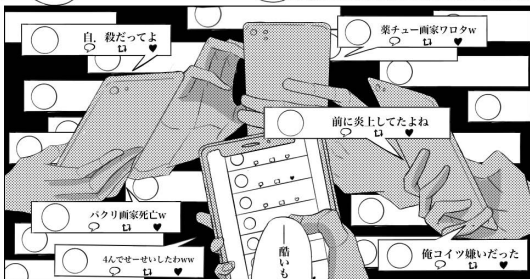
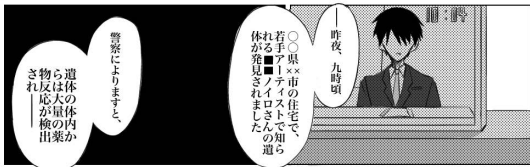
—— 良かったんだ。



これで俺は

次のニュースです

20〇〇年××月××日





「俺に注目しろ」とでも
主張してるかようだ

